

■科目名			
肢体不自由児の心理・生理・病理 Psychology, Physiology and Pathology of Children with			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	専修専門科目	特別支援教育	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	5期		前
■担当教員			
松元 泰英			
■代表教員名及び連絡先等			
y-matsumoto@soc.iuk.ac.jp			
■オフィスアワー			
集中講義のため各授業日の授業時間外（休み時間、放課後等）に受け付けます。			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
肢体不自由児の特性を、心理、生理、病理それぞれの側面から概観していく。特に、脳性麻痺児の心理、生理、病理について理解を促す。また、肢体不自由教育に必要な人体の解剖的な内容を盛り込みながら、現在学校現場で問題になっている医療的ケアや摂食指導についても言及する。			
■授業の到達目標及びテーマ			
肢体不自由児等を中心とした子どもの心理、生理や病理等を理解し、摂食指導の基礎的技能を身に付ける。			
■授業計画			
1. 肢体不自由について（脳性麻痺） 2. 肢体不自由について（筋ジストロフィー等） 3. 肢体不自由児の指導法1 4. 肢体不自由児の指導法2 5. 染色体異常と遺伝子疾患について 6. 脳構造と機能について 7. 情動について 8. 学習と記憶について 9. 運動と生理学について 10. てんかんについて 11. 医療的ケア（吸引を中心に）について 12. 医療的ケア（経管栄養を中心に）について 13. 摂食指導について（理論） 14. 摂食指導について（実技） 15. 摂食指導（復習）とまとめテスト			
■授業外学習（予習・復習）			
できる限り特別支援学校や施設を訪問し、肢体不自由児と接する機会を作ること。			
■受講要件			
■成績の評価基準			
期末レポート40% 最終日にまとめテストをする50% 平常点（授業中の参加態度、理解度等）10%			
■教科書・参考書			
特になし。資料は教師が用意する。			
■教師としての資質能力に関するチェック項目			
5. 協働実践力 【B連携協働力、自己改善力の育成】 集団の中で、役割に応じてリーダーシップを発揮したり、他者と連携・協力して活動したりできる 7. コミュニケーション力 【B連携協働力、自己改善力の育成】 他者とのかかわりや適切なコミュニケーションの在り方について基本的な理解を深め、自らそれを実践することができる			

9. 学習者の心理・発達に関する理解

【C学習者理解】子どもの発達や心理など，子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており，それらを生かして子どもの発達を分析することができる

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基本的な知識を身に付けており，それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

14. 教材分析力及び授業デザイン力

【D構想力，展開力，評価力等】教材を分析する能力を身に付けており，教材研究にもとづいて授業をデザインすることができる

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；

アクティブ・ラーニング（その他）

アクティブ・ラーニング(授業回数)

■実務経験のある教員による実践的授業

特別支援学校勤務経験あり

学校現場での困りごとを中心に解決できるような授業を心掛ける。

■その他

授業形態（対面・遠隔）については、コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。